

園芸文化



No.129

ご挨拶

公益社団法人 園芸文化協会 会長 小笠原 左衛門尉亮軒

早春の候 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
年があらたまり、今年こそ良い年でありますよう祈ります。

協会会員、賛助会員、並びにご関係各位におかれましては、当協会の運営・活動に対しご参加、ご協力、ご支援を賜りまして誠に有難く、心より厚く御礼を申し上げます。

令和二年度は、年初から新型コロナウイルス発生の為、ほとんどの催し、活動を中止、自粛するなど、会員の皆様には誠に申し訳ない思いであります。そのなかで唯一、「園芸道具の選び方・使い方「コツ」の科学」(講談社)の発刊と、編集委員による協会報「園芸文化みんなの広場」および協会誌「園芸文化」の刊行が出来、関係各位にお届けいたすことができました。ご高覧下されれば幸いです。

令和三年度は、一年延期となりました東京オリンピック・パラリンピック開催の年でもあり、無事開催できればと祈ると共に、私ども園芸文化協会の活動も元に戻し、さらなる発展の年となりますよう祈ると同時に、ご関係各位のご健勝とご多幸を祈り、一層のご支援お引き立てを賜りますようお願い申し上げます、巻頭のご挨拶といたします。

敬 白

令和3年 春日

C O N T E N T S

園芸文化 January 2021 No.129

寸暇録 (すんかろく) 連載第四回	小笠原 左衛門尉亮軒	
よき花のひらき始めや福寿草	(おがさわら・さえものじょうりょうけん)	1
創立75周年記念講演・誌上公開 園芸文化を支えた花たち	公益社団法人 園芸文化協会	4
令和二年度 園芸文化賞 園芸文化賞を載いて	鳥居 恒夫 (とりい・つねお)	8
リコリスの世界	長岡 求 (ながおか・もとむ)	10
アーカイブ 私の植物記 交際二〇年のヒガンバナ	平城 好明 (ひらき・よしあき)	12
クルメツツジの野生を求めて	阿部 定夫 (あべ・さだお)	12
事務局より (協会案内)・活動予定変更のお詫びと感謝		13
ナーセリーの庭	三宅 勇 (みやけ・いさむ)	[裏表紙]



表紙写真

日比谷公園第一花壇のツツキ '金環'。
2018年に改修した日比谷公園第一花壇には、日本で
育種されたバラと草花を揃えています。
中でも葉芸花壇としたコーナーでは、日本人が見い出
した葉の美しさ、面白さを知ってもらうためにツツキ、
ヤブコウジ、ギボウシ、アオキなどの鉢品が見られます。

* 編集制作 / (公社)園芸文化協会 会報編集委員会
* DTP デザイン / 中村宗保子 (ムルハウス)
* 写真提供 / 阿部定夫 NPOパラ文化研究所 小笠原左衛門尉亮軒 奥峰子 崎サカタのタネ セントリーフラワーズ 尚古集成館 タキイ種苗 鳥居恒夫 長岡求 平城好明 前田悟 御堂義業 緑の図書館東京グリーンアーカイブス 三宅勇 胸ミヨシ (五十音順)



寸暇録

一般財団法人 雑花園文庫・庫主

小笠原左衛門尉亮軒

連載第四回

よき花のひらき始めや 福寿草

【寸暇録とは】

忙しい日々の暮らしの中で、少しの時間を利用して行うことなどを、寸暇云々と言うようです。園芸を楽しみとする人、園芸を業とする人、共に気づいた事柄や、植物育てをしたことを書き留めたらと思つて名付けました。

(小笠原 左衛門尉亮軒・題字署名直筆)

花壇綱目巻上

春草九種

福寿草 花黄色小輪也 正月初より花咲、元日草とも、朔日草(ついたちそう)とも、福づく草とも俗に云
 ●右糞土の事 肥土に砂を少加て混ぜ合ふるにて用て宜し
 ●肥の事 茶がらを干し成程こまかに粉にして右の土に少し宛交る也。
 ●分植事 二月末より三月節迄八月末より九月節分植也とある

花壇綱目 上

図1:『花壇綱目』水野元勝著 延宝九年(1681)刊 三冊
 「福寿草 ●花黄色小輪也 正月初より花咲、元日草とも、朔日草(ついたちそう)とも、福づく草とも俗に云 ●右糞土の事 肥土に砂を少加て混ぜ合ふるにて用て宜し ●肥の事 茶がらを干し成程こまかに粉にして右の土に少し宛交る也。 ●分植事 二月末より三月節迄八月末より九月節分植也」とある

幸運な名の「よき花」

植物の名は、どれ一つ植物自身が名乗ったものではなく、私達人が勝手に付けて、人の側で認識しているに過ぎない。しかしそうして名付けられた植物名にも、運、不運があり、今回取り上げた福寿草は、「よき花の ひらき始めや 福寿草・五情」と句に詠まれるように幸運の持ち主で、一方可哀想な名もあり、その代表格は「鬼も十八 番茶も出端 へくそ葛も 花盛り・都々逸」であろう。

今回は幸運な名をもつ、福寿草の我国での園芸植物的発展を資料を基に考察してみよう。

江戸時代、最初の刊行園芸書『花壇綱目』(図1)には、植物の開花期を四季に分け、春の部最初に福寿草が取り上げられているので輯録する。



福寿草の葉は、冬より生シメ花ヲ包テ出ス 立春ノ頃先一花ヲ開テ漸々花ヲ生シ枝ヲ分チ花ヲ開ク 始テ一花開ク時莖ヲスカーニ二寸漸ク長シテ四五寸至ル 花ハ単弁十葉許菊ニ似タリ、日向ニ置ケバ開キ日陰ニ置トキハ開カズ (云々) とある

図4：『嘉卉園隨筆』 横井時敏著 宝暦八年（1758）成稿写本 四冊 「福寿草 漢名不詳 冬より生シメ花ヲ包テ出ス 立春ノ頃先一花ヲ開テ漸々花ヲ生シ枝ヲ分チ花ヲ開ク 始テ一花開ク時莖ヲスカーニ二寸漸ク長シテ四五寸至ル 花ハ単弁十葉許菊ニ似タリ、日向ニ置ケバ開キ日陰ニ置トキハ開カズ (云々)」とある

図3：『畫本福寿草』 大岡春川著 宝暦五年（1755）刊 五冊 「ふくじゆそう 元日草 種しあれば 岩戸ひらくや 福寿草 旧徳 立春に 花咲」とある

図2：『繪本野山草』 橋本國著 宝暦五年（1755）刊 五冊 「元日草 花ヒラキシベ同、クキ白六シヲウカケエンジクマ 生エンジスミ」とある。この本は元米絵手本の為、色の指定が添えられている

江戸期の文献と図譜

「福寿草 花黄色小輪也 正月初より花咲く 元日草とも 朔日草とも 福づく草とも俗に云。右養土の事 肥土に砂を少しかけて能ませ合 ふるいにて用て宜し 肥の事 茶がらを干 成程こまかに粉にして右の土に少宛交る也。分植の事 二月末より三月節迄 八月末より九月節迄分植也」
こうして、江戸期暫く世情が落ち着き、太平を謳歌しはじめた十七世紀後半、庶民に愛される花として扱われ始めた。

その後、多くの文献資料の記載を見るに、十八世紀中頃、一般庶民が一層植物育てに興味を示したり、絵画を描くことも遊びの一端となって「植物図譜」や絵手本の類が多数刊行されるようになった。

その代表的な本に『繪本野山草』（図2）や、その名もずばり『画本福寿草』（図3）などがある。共に福寿草は図入で記載がある。

同年代の園芸書『嘉卉園隨筆』（図4）には、初期の品種が出現し、「福寿草（前略）花ハ単弁十葉許菊花ニ似タリ外青褐色内深黄色也 日向置トキハ開キ 日陰ニ置トキハ開ズ却テ萎ム 好事者元日未明ヨリ火氣ヲ以テ開カセ祝事トス 故ニ元日草トモ云 浅緑福寿州アリ 青白ニシテ黄色ヲ帯 八重アリ 肥ルトキハ弁モ多シ 然トモ他ノ重弁類ニ非ズ 葉色浅緑色ニシテ花外色深ク紫色ヲ帯」とあり、色変り、重弁種の出現を記す。

時代は少し下がって、天保四年（二八三三）に刊行された『金生樹譜・万

年青部』（図5）万年青の品種図譜には、同書の他『松葉蘭譜』（刊）福寿草譜、百両金譜、南天譜、石斛譜、蘇鉄譜の計七種の品種図譜の刊行予定が記載されているも、福寿草以下は結果的に刊行されなかった。たぶん天保の改革で自粛を余儀なくされたことであろう。

しかしながら、同年代の成立と考えられる『福寿草写生図』（図6）他数点の写本が私の文庫に来てくれたが、今回は『福寿草写生図』を紹介する。

この本は全四十七丁、各丁に二図（一頁一図）ほとんどに品種名称を書入れ、彩色（原寸大）として描かれているが、作図から二書からの写本のように、元図の描き方が異なる。前半二十一丁、四十二丁、後半二十六丁、五十一丁 前後に同品種名あり、約六十品種以上が確認できる故、天保年間にはこれだけの品種までに品種数が増加したのであろう。花色は、緑黄色を基本とするも、淡黄、濃黄、紅色を含んだもの、本紅、紫、白など、花型には一重大輪、細弁、ヨレ弁、撫子咲、八重咲、段咲、狂咲などがある。

明治以降の流通事情

明治に入ってから成立『董園福寿草譜』（図7）は前記『福寿草写生図』に内容は類似する点もあるが、現在最も多く栽培されている品種「福寿海」の記載がある。

昭和四十年頃、私は福寿草を仕入れる為に生産の多い埼玉県寄居地方を訪れた。当時この地方は桑畑が一面に広がり、その桑畑の間作として、福寿草、福寿海、が栽培

金生樹譜
萬年青部
長生會主人著
天保四年刊

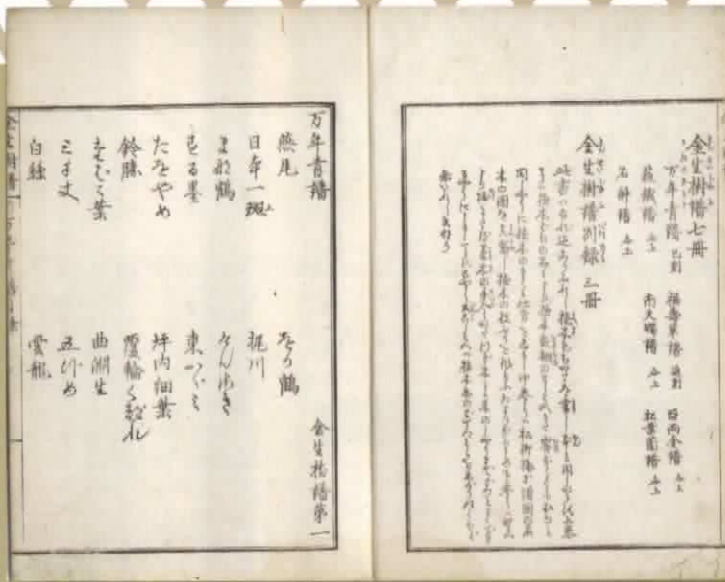


図5:『金生樹譜・万年青部』
長生會主人著
天保四年(1833)刊 一冊
「此書はこれ迄ありふれし植木も
ちかたを書し本と同じからず、上
巻には植木鉢、中巻には松柳梅諸
国の名木、下巻には草木の手入、
接木押木ふやし方を記す(云々)」
とある

福寿草写生圖
萬年
全



図6:『福寿草写生図』 著者未詳 天保頃成稿か(1830~1844) 写本 一冊
品種名 右図右より: '百合咲' 一重咲大輪、'爪折' 一重咲大輪。花弁先が襷折(つままり)となる。左図右より: '丁子咲き' 一重咲小輪花弁に萼片が混る、'青梅三段咲' 三重咲大輪

* 下記サイトもご参照ください 名古屋園芸・花の博物館(福寿草写生図)
<https://nagoyaengei.co.jp/hakubutukan/hakubutu/miyabi/hukujuso.htm>

莖園
福壽草園譜
植本
全



図7:『莖園福壽草園譜』 莖園佳月著
明治八年(1875)成稿写本 一冊
右 '福寿海' 「一月中旬より咲始め、
順次枝分れし、次々と開花する。極め
て大輪、青梅性の最上なり」とある。
左 '秩父紅' 「二月上旬発芽し下旬よ
り開花 萼紫鉄色、花弁黄赤色二十弁
有り」とある

されていた。
株分けし、三年ごとに掘り上げ、多くを販
売に廻し、一部を種苗として再び定植する
作型であったように記憶する。
令和の現在、福寿草の市場流通は極端に
少くなっているように思われる。再興を願
う一人である。

園芸文化を支えた花たち

園芸文化協会の 75 年

① 「園芸文化協会」 設立

1944 (昭和 19) 年 3 月 10 日・文部省 (現・文部科学省) により認可。初代会長 島津忠重公爵。二つの存在が、協会設立の原動力となった

1. 前身団体である花卉同好会 (1926 年設立) の活動。
2. 不要不急作物作付制限規則 (通称 花禁止令) への危機感。

園芸文化協会の名前の由来は、「園芸文化の進展」ではなく「園芸による文化の進展」である。発足時の定款には「本會ハ園藝ニ依ル文化の進展ヲ圖リ以テ情操ノ陶冶ニ資シ併セテ美! 育ノ徹底ヲ期スルヲ目的トス」(発足時の定款第二章「目的及事業」第三條より) とある

戦時下での活動は「品種を守ること」と「研究会」。具体的には下記のような活動記録があり、当時の社会状況が偲ばれる。

1. 品種保存

- ①調査カードを配布 ②品種台帳を作成 ③「保存勧誘状」を送付

2. 研究会

研究会の名称	内容
ウメの花合わせ	ウメの品種の比較研究/タンポポの試食
時局と園芸	古文献調査とその必要性に関する講演会 *「時局」とは「戦争」のこと
ダリア研究会	ダリア展示とダリアの品種改良の動向について講演会/食用野草についての話
サツマイモ料理研究会	当時の主食サツマイモの調理法の研究と試食会

② 「ガーデンビューロー」の運営

1946 (昭和 21 年) 開設。スローガンは「焦土と化した国土を花と緑でいっぱい」。戦禍の跡が癒えぬうちより、いち早く活動を再開。ガーデンビューローを拠点に、花卉園芸の復興と普及に努めた



ガーデンビューロー
・園芸相談・輸入種子、球根、苗木の配布・種苗、器具、薬剤の斡旋・園芸生産品の展示、講習会。これらの活動を通して、花卉園芸復興の拠点とした。
[写真提供: 緑の図書館東京グリーンアーカイブス]



初代会長 島津忠重公爵 英国王立園芸協会 (RHS) を目の当たりにして、協会設立を決意。[写真提供: 尚古集成館]

花卉同好会品評会
1935 (昭和 10) 年
於: 日本橋三越本店



1944 ~ 1948 年



上: '農林1号'
右: '護国'

[図版提供: (一財) 雑花園文庫]

サツマイモ

食糧難の時代、サツマイモは「救荒植物」と言われ、飢饉のときの食の備ものの一役を担った



バラ



'ピース'

1945 (昭和 20) 年、園芸文化協会誕生の翌年に第二次世界大戦終戦。この頃、バラ 'マダム アントワネット メイアン' がアメリカで 'ピース' と改名され、世界中の人々が、このバラに平和への思いを託した

1949 ~ 1953 年

ダリア

カーネーション

農家が切花需要を満たすため、温室栽培がさかんに行われるようになる

ダリア '銀盤'

1951 (昭和 24) 年、黒相惇氏により作出。当時、1球 1,500 円で販売された。参考: 当時価格 ポンポンダリア球 10 円、一般的なダリア球根 30 ~ 50 円、大輪系ダリア球根 100 円

[写真提供: 晴サカタのタネ]



1954～1958年

観葉植物

人気の火付け役となったゴムノキ 'クライギー'、コルディリネ ターミナリス 'アイチアカ' など多彩な観葉植物が、家庭で観賞されるようになった

1959～1963年

サツキ

空前のサツキブーム。30～80cmの長尺苗（普通苗 50円ほどに対し 800～1,000円）を仕立てたものが飛ぶように売れた



サボテン

サボテン '緋牡丹'

当時の台木はリュウジンボク（竜神木）だが、写真はサンカクバシラ（三角柱）。輸出の花形植物であった。

[写真提供：常務理事 長岡求]

1964～1968年

シクラメン

赤色、朱赤色のシクラメンが大流行、冬の風物詩となった。覆輪花 'ビクトリア' などフリル～フリンジ咲き品種も人気

1969～1973年

セントポーリア

家庭の室内栽培で多彩な品種コレクションが愛培された



セントポーリア オプチマラ・シリーズ

[写真提供：常務理事 長岡求]

ツバキ

右：ツバキ '玉の浦'

[写真提供：名古屋椿協会会長 前田悟]



左：ツバキ '緑白（ふちしろ）' 『椿花図譜』

[図版提供：（一財）雑花園文庫]

③ メダルの制作



紅筋ヤマユリ

1947（昭和22）年、日本の彫塑界の第一人者、朝倉文夫先生により制作。メダルのモチーフは「日本を代表する花」として「紅筋ヤマユリ」に決定。



園芸文化協会メダル
（制作：朝倉文夫氏）

④ 協会報『園藝文化第1号』の発行



1948（昭和23）年、印刷技術も紙も不十分な中、やっとの思いで会報を発行。がしかし……原稿のひとつがGHQの忌避に触れ、発行後数日で没収されてしまう。創立70周年記念事業として、国会図書館に保管されていたマイクロフィルムより復元

「9-15-48」の書き込み

⑤ 初のTV園芸番組の企画・出演

1954（昭和29）年「暮らしのしおり」（日本テレビ）に「季節の園芸」コーナーが新設された



写真右は当時の事務局長、加藤光治氏

⑥ 「花の文化展」の開催

1959（昭和34）年の第1回は「皇太子殿下ご結婚記念慶祝」。1959（昭和34）年～2002（平成14）年まで39回開催



昭和天皇がお気に召され、天皇誕生日に毎年飾られていた「フジ紫甲牡丹」の盆栽を展示



秩父宮妃殿下をお迎えして。右は石田博英会長



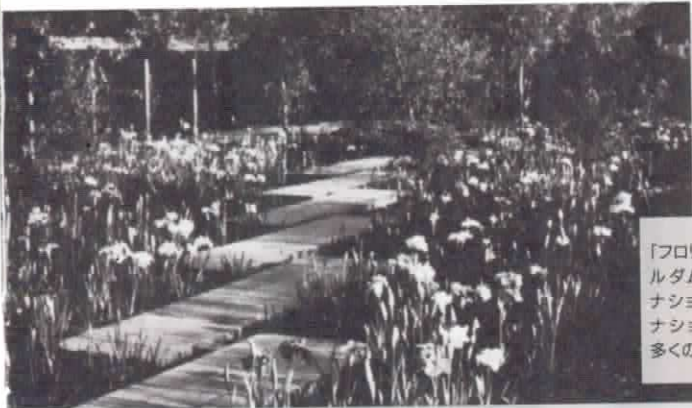
1974（昭和49）年第11回花の文化展。美智子妃殿下（現上皇后陛下）ご来臨



2000（平成12）年第37回花の文化展屋上では「スモールガーデン」、「ハンギングバスケット」のコンテストを開催

7 海外の園芸博に出展

1972(昭和47)年「フロリアーデ・アムステルダム 1972」、1973(同48)年「ハンブルグ万国園芸博」と2年続けて出展参加



「フロリアーデ・アムステルダム 1972」でのハナショウブの展示。ハナショウブやユリなど、多くの植物を提供

8 「園芸文化賞」の創設

1977(昭和52)年創設。
これまでにのべ138名・4団体が受賞



平成28年度受賞 三宅勇理事

令和元年度表彰式
前列左より箱田直紀氏、
広田親子氏、鷺澤幸治氏

9 「園芸文化展」の開催

1983(昭和58)年より、「日本のチェルシーフラワーショー」を目指し盛大に開催



オープニングセレモニー(1983)

室内での新品種花き展示(1986)

10 「新花コンテスト」

1994(平成6)年、新品種の花のコンテストを開始



2005(平成17)年からは「日本フラワー&ガーデンショー」の「F&Gジャパンセレクション」コーナーにて、「ジャパンフラワーセレクション」と合同で開催

1974～1978年

シンビジウム



‘マリリン モンロー’
[写真提供：常務理事 長岡求]

1979～1983年

パンジー

開花が長い品種の登場により、パンジーが秋から流通し始めるようになった。おかげで花壇の花の入替回数が減り、花壇維持管理にも一役買った



‘マジェスティック ジャイアント’
世界初のF1パンジー。1966(昭和41)年AAS(オールアメリカンセレクション)で銅賞を受賞。[写真提供：㈱サカタのタネ]

1984～1988年

トルコギキョウ

‘キング ミックス’
原種のトルコギキョウの育苗はとて難しく、「トルコギキョウが作れるようになったら1人前の生産者」と言われたほど。花の美しさもさることながら、作りやすくなったという点でも画期的な品種
[写真提供：㈱サカタのタネ]



ハーブ

広田親子さん(令和元年度園芸文化賞受賞)らにより紹介され、ガーデニングブームを支えた主婦層を中心に受け入れられた



1989～1993年

ヒマワリ

‘サンリッチ’
[写真提供：タキイ種苗㈱]



ユリ

‘カサブランカ’
1984(昭和59)年オランダで作出。最初は切花として輸入され、その後球根も売られるようになった。1球1,500円と高級花の代表格。
[写真提供：タキイ種苗㈱]



ペチュニア

‘サフィニア’
ペチュニア人気を牽引した品種。2019年、発売30周年を迎えた
[写真提供：サントリー・フラワーズ㈱]



1994～1998年

ダリア

「黒蝶」
切花の大輪ダリアのすばらしさを再認識させたとともに、ダリアブームの火付け役となった品種。麗澤幸治氏作出
[写真提供：榎ミヨシ]



アジサイ

「ミセスクミコ」
この品種をきっかけに、アジサイの育種が盛んになる。母の日の贈り物が、ポットカーネーションから、アジサイの鉢物にシフトするきっかけにもなった
[写真提供：常務理事 長岡求]



1999～2003年

クリスマスローズ

「ルーセブラック」
[写真提供：榎ミヨシ]



2004～2008年

野菜づくり

「食の安心・安全」から野菜づくり、プランター菜園がブームに



ミニトマト「アイコ」
[写真提供：榎サカタのタネ]

ナス「千両二号」
[写真提供：タキイ種苗株]

2009～2013年

オールドローズ

「フレデリック2世ドゥプリュス」
[写真提供：NPO法人パラ文化研究所]



2014～2018年

多肉植物

ソーシャルネットワークワークシステム(SNS)の普及により、「映え(ばえ)」るカタチが人気に



多肉植物の寄植え
[写真提供：常務理事 奥峰子]

⑪ 「実践ガーデニング講座」

2000(平成12)年開講。

1年かけて花壇づくりを学ぶ本格的講座。恵泉女学園短期大学(神奈川県伊勢原市)にて実施。花壇のデザインから植物選び、管理までを受講生自身が行う本格的なガーデニング講座として人気に



⑫ 新宿御苑での活動

「観菊会」・「花市場」・花壇監修



上：菊花壇展観菊会
2004(平成16)年～
左：観菊会の解説講義



右：新宿御苑花市場
2005(平成17)年～



上：園内花壇の監修 2018(平成30)年～

⑬ 日比谷公園での活動

園内花壇のボランティア管理と監修



第二花壇のバラ管理ボランティア「日比谷ローズ」2007(平成19)年～



第一花壇の監修(植栽デザイン、管理)2018(平成30)年～

⑭ 創立75周年記念・異業種とのコラボレーション

2019(令和元)年、「音楽」・「演芸(落語)」とのコラボレーションが実現



音で紡ぐ 花ものがたり

園芸と演芸の競演会

[撮影：御堂義乗]

園芸文化賞を戴いて

（公社）園芸文化協会 園芸文化審議委員
さくらそう会世話人代表

鳥居 恒夫

〈受賞理由〉

長年にわたり「さくらそう会」の世話人代表をつとめ、日本固有の植物である桜草の品種整理と保存や栽培技術研究を行った功績は顕著で、ラジオや出版物などを通じて幅広く園芸文化や植物に関する知識や話題を伝え、園芸文化の発展に貢献した。



鳥居 恒夫氏

「さくらそう会」の活動

園芸界重鎮方のご推挙により、「令和2年度園芸文化賞」を戴きました。「さくらそう会」の運営や品種整理、植物・園芸文化の普及活動」を評価して頂いたと伺います。

逆境から護った先人たち

維新後は愛好者に細々と育てられ、大震災や戦争で絶滅に瀕しました。戦中には食料にならぬ花作りは非難を受け、作物の間に隠して護ったという逸話もあります。

戦後、愛好家達は必死に護った品種を持ち寄り、会が発足して普及活動が始まりました。戦後、愛好家達は必死に護った品種を持ち寄り、会が発足して普及活動が始まりました。

戦時中に失われた桜草が復活したのは、1952年（昭和27年）に発足した「さくらそう会」が行った展示会や配布苗の活動によるもので、世話人代表として主導された大山玲瓏氏が受賞されるものと存じましたが、機が熟さぬうちに病没されました。私はそれをなぞってきたにすぎず、お恥ずかしい次第と自嘲するばかりです。

今回の受賞は、「さくらそう会」の桜草保存普及活動が始めて公に評価されたものと理解し、江戸期からの先人方から、大山氏をはじめ多くの会員方をも顕彰できると存じ、ありがたく頂戴いたします。

桜草は江戸の地に生えた野草を、江戸の人が育てあげた唯一の園芸草花で、安永・寛政時代（1771～1800）には大流行しました。文化（1804）か

幕末にかけては、直参の御家人達が連作で作って新花の育成を競い、和歌から引用した雅な名称を付け、鉢植えを美しく段に飾る「桜草花壇」を作り、江戸の園芸文化の一つとなりました。

江戸から昭和に生きて伝わった品種は間違いが多く、その混乱を整理する必要がありました。私が大山氏から引き継いで収集・試作・調査を重ね、少ない資料と伝承を頼りに、存在する品種本位に進めました。最も役立ったのは花の雌蕊の長さや雄蕊の位置関係による花柱形で、品種ごとに定まった特性であることを発見し、これが判別のカギとなりました。

こうして特定した品種に一つの名称を定め、「さくらそう会」の認定品種として拾い上げ、会員の同意を得て公開するまで30年を要しました。

その後、新品種にもこのやり方を広げ、選抜佳品とそれから格上げする認定品種の二段階の評価とし、3冊のカラー図譜の刊行で公表しました。



「桜草花壇」 天保の頃に創案された鑑賞法式。明治初期の製作と思われる物が伝来し、組み立て式で、さくらそう会が補修保存している



最古の園芸品種「南京小桜」『地錦抄附録』（1733年刊）に図がある野生的な最小輪花で、今も強い繁殖力を持つ

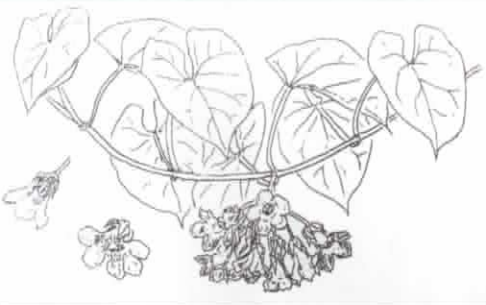
夜来香の思い出

私が扱った植物の中で、特に思い出深いのは夜来香（イエイライシャン）で、タイ国で見つけて持ち帰り、神代植物公園の大温室ができた翌年8月に、花と香りがはじめて公開となり、夏の植物公園が大賑わいとなりました。NHKのニュースで流れ、朝日新聞の「天声人語」で取り上げられて、一時の話題となりました。

夜来香は東南アジアの植物ですが、香りと名前が有名なので、中米産の月下香（チューペローズ）と夜香木（夜香花）が代用品として流布し、昭和10年代に流行した「夜来香」の歌とともに広まりました。

夜来香の香りは黄色のバラにやや青臭さを加えたような独特の香りながら、ガガイモに似た雑草めいた風姿には、園芸植物という見栄えや商品価値が見られず、バンコックのサンデーマーケットを訪れる園芸人の目にとまらなかったようです。このような植物こそ私が見つけて植物園で紹介する意義があったわけで、若年より植物の名を正確適切に呼ぶことを心掛けてきた活動の一つとなりました。

退職後に新しい植物を認識するために始めたボタニカル・スケッチは、下手ながら20年続いて5600点となり、自分の植物図鑑として活用できる資料になりました。よく見て要点をスケッチするメモ程度のもの。現地で短時間に描くのが基本で、特性のメモをつけます。よく見れば誰にも描け、観察力が養えるので、今では若い人たちに勧めています。



スケッチ「夜来香」

植物園の仕事をするうちに、一つの疑問が湧き上がりました。それはどうして人は花を見て美しいと感じ、和やかな気持ちになれるのだろうか。これは難問で、82歳の今でも答えられません。しかし70に届くころに、「花は美しい、緑は麗しいと感じる心の働きこそが、人類だけが体得した文化だ」と気付いたので。このことから生きとし生けるものへの慈愛の心や愛憎の念、芸術という心の文化へと発展したのではと考えます。



花壇の飾り方 花形花色を考えて、彩りよく陳列

これからの品種保存には

桜草は古典園芸植物ではなく、現在も実生による新花の育成は盛んで、四倍体や八重咲品など新しいタイプの発表もあります。実生花が将来も残るには品種が必要で、その評価を保証するのが園芸文化協会の存在かと思えます。「さくらそう会」は古くから「園芸文化協会」の団体会員で、「花の文化展」や講習会にも参画してきました。私鳥居は昭和38年頃からの会員で、会員歴だけは最も古い方の一人になったかと思えます。

品種保存は、公益社団法人日本植物園協会が創設したナショナルコレクション制度により、都立神代植物園とさくらそう会がタイアップすることで、将来への見通しができましたが、鑑賞法式まで含めた園芸文化として、さらに複数の植物

園と連携したいと思えます。

桜草の将来については、桜草だけの保存ではなく、多様な植物や花と親しむ人を増やし育ててゆけば、桜草もきつと残ることができると思えます。桜草作りの先人方は実に様々な和洋の花を楽しみ、豊かな趣味を持つ人たちでした。

花や緑を愛てる心こそ

敗戦時に小学校一年生であった私は、以後平和な時代を植物とともに育ち、植物にかかわる仕事をして生きてくることができました。勤務した東京都の神代植物公園と夢の鳥熱帯植物館では、お客様に顔を向け、多様な植物を集めて育て、展示や講習会を企画し、質問や相談に応じるなど学芸員同然の仕事をし、その資格も修得しました。植物・園芸相談ではどのような方にも同じように応対し、お



「山白雨」 鳥居発表の現代の品種、北斎の富岳三十六景より命名



リコリスの世界 Lycoris

（株）フラワーオークションジャパン専務取締役・花の広報室長
（公社）園芸文化協会常務理事

長岡 求



ヒガンバナ
Lycoris radiata var. *radiata*



シヨウキズイセン
L. traubii (syn. *L. aurea*)



リコリス スプレングリ
L. sprengeri



リコリス 'スプレントラウブ'
L. 'Sprentraub'
〈サム・コールドウェル 作出〉咲き始めの花弁が白とクリーム色の2系統あり



黒赤ヒガンバナ
L. radiata var. *radiata* 'Kuroaka'
〈鈴木吉五郎 選抜〉

身近になった真紅の魅惑

ヒガンバナ *L. radiata* var. *radiata* といえば、年配者にはお彼岸の頃、お墓に咲く花というイメージがあり、私も子供のころ、裏庭に育っていた株を花壇に植えたところ、祖母から縁起が悪いと叱られました。最近はそのイメージが薄れ、埼玉県の巾着田に代表されるように、観光資源にされ、庭植えもふつうに見られるようになりました。

日本に自生するヒガンバナはご存知と思いますが、同質三倍体で、結実しません。中国には二倍体のシナヒガンバナ（コヒガンバナ）*L. radiata* var. *pumila* があり、原生地に三倍体もあると言いますから、故郷は中国にあるのは間違いなく、それも最近のDNA解析によれば国内のヒガンバナはほとんど一つのクローンであり、古くに持ち込まれた1球から分球により増えたものと推測されています。

リコリス研究の系譜

そのヒガンバナに注目し、研究対象にした人がいます。尾張徳川家第十九代

当主である徳川義親侯爵（1886～1976）です。侯爵はヒガンバナの不稔性の研究を始め、後に設立した徳川生物学研究所では、稲荷山資生（1895～1976）がヒガンバナなどの花粉の染色体数を調べるなどの研究を行い、小山松治郎や武村英一による交雑試験に関する研究などがなされました。

近年では千葉大学の栗田子朗（1936～2019）によるヒガンバナ属の核型解析の研究があり、この研究成果は育種を行う上で必見の資料です。

また森源次郎（1943～）による開花生理の研究では、ヒガンバナが低温を経た後の長日条件で花芽形成することが確かめられています。

多彩な品種を生んだ情熱

園芸の世界では、野生蘭の大家で各種の園芸書を執筆されたことで知られる春及園園主、鈴木吉五郎（1898～1988?）が見出したという黒赤ヒガンバナや戦前に導入されたブルーパール、稲荷山資生が研究に使った中国由来の系統が今に引き継がれています。

いっぽうヒガンバナ属（リコリス）の

導入、交配、普及に貢献したのは平尾秀一（1919～1988）です。平尾氏は米国のサム・コールドウェル Sam Caldwell（1904～2000）との親交があり、各種の原種や品種を交換し、彼自身は数百の組合せで交配を行っています。昭和63年に70歳で亡くなると、そのコレクションや実生個体が長崎県の城下農園に引き取られ、開花した実生個体に品種名が与えられ、増えたものは販売されていました。

寺田甚七（1936～1991）はシロバナヒガンバナなど日本で入手できる品種で育種を進め、独特な品種群を残しました。小森谷ナーセリーの小森谷慧氏も多数の交配を行い、一部は命名され、販売もされています。

もう一名、大野一矢氏の名前も忘れてはなりません。第二次世界大戦が終えてまもなく、中国から米国へ輸出されたリコリス球根の供給源が喪失し、日本南部にあったシヨウキズイセンを米国へ輸出する道が開けます。大野一矢氏は輸出用の球根生産を行った中心的人物で、黄花草の系統を集め、交配を行うなどして、増殖率がよく、花立ちが良い系統の選抜を目指し、傍ら、種間交雑も行い、幾つ



リコリス 'アルビピンク' *L. × albiflora* 'Albi Pink'
 (作出者不明) おそらくB.Y. モリソン (B.Y. Morrison) 氏が日本から
 輸入したアルビフローラの中から数系統ピックアップした一つと推測



リコリス アルビフローラ (シロバナマンジュシャゲ)
L. × albiflora



リコリス 紅さつま,
L. × rubroaurantiaca 'Benisatsuma'
 (大野一矢 作出)



リコリス 'さつま美人'
L. × albiflora 'Satumabijin'
 (平尾秀一 作出)



リコリス 'おおすみ'
L. × rubroaurantiaca 'Ohsumi'
 (大野一矢 作出)



リコリス 'フAWN'
L. 'Fawn'
 (サム・コールドウェル 作出)



リコリス 'ハネムーン' *L. 'Honeymoon'*
 (平尾秀一 交配)



リコリス 'ヒロイン' *L. 'Heroine'*
 (平尾秀一 作出)



リコリス ホウディシエリー (別名: 真夏のクリスマス)
L. × boudysbelii
 フロリダのウィンダム・ハイワード (Wyndham Hayward) 氏が1948
 年に上海から輸入した白花種で、3球がサム・コールドウェル氏に渡り、
 1951年に開花し、トラウブ (Traub) 博士が1957年命名したものと

販売されると思います。

現在、日本には500ほどの品種があり、城下農園ではつい最近までその7割ほどがカタログに掲載されていました。高齡を理由に、販売を取りやめ、コレクションを継承する人を探していません。引き受けるにあたり2つの条件を示されています。コレクションを維持することと増えたものは販売して世に広げることです。私が引き受けてもよかったです。立場、販売することはできず、またそれなりのコレクションを持っていただくこともあり、知り合いの生産者に声をかけ、2名の生産者に引き受けていただくことになりました。いずれ、それらは

ここから展開する楽しみ

もの品種を世に出しています。片山繁朗氏もリコリスにこだわり、長年育種を続け、スノーフェアリーなど秀逸な品種を世に出しています。

なお、通販等で販売されるリコリスは10種類程度で、リコリスの多様性を知るには一部のマニアのみというのが実態ですが、神奈川県の花菜ガーデンや小田原フラワーガーデンなど、品種を揃えて展示する公園がいくつかあります。花菜ガーデンでは寺田甚七氏の育成品種のコレクションを含め、150品種ほどが花を咲かせます。機会があれば、こちらも訪問してください。

ちなみに、平尾先生は静岡県丸子から神奈川県逗子市山の根に転居しています。リコリスの品種に「山の根ロゼ」など、山の根を冠するものがいくつかあるのですが、その地名に由来するものです。今回、平尾コレクションが神奈川県に里帰りしたことを契機に、より多くの人に、多様なリコリスに触れていただく機会を作ります。その時には是非、ご参加いただこうお願いいたします。植え終えた一人の生産者からは花が咲き始めたが、実に多様な花に驚いていると報告がありました。



リコリス '山の根ロゼ' *L. 'Yamanone Rose'*
 (平尾秀一 作出)
 *本種は日比谷公園・第一花壇にも。今秋にはぜひご覧ください!

交際二〇年の
ヒガンバナ

平城好明

彼岸花は九月に咲くと言えは当たり前だと笑われるが、聞いてみると、春と秋の彼岸に咲く、と答える人が意外に多いのも事実。ある教育委員会から、彼岸花は春にも咲きますね、と電話で問合せがあり苦笑した。彼岸花は秋に咲くが、それも一年に一回しか咲かない、という性質は知らない人が多い。

ところで、春の彼岸に彼岸花を咲かせたら、仏様もさぞ喜んでくれるだろうと、春咲きを試みた。リコリスの話を楽しくできるのは阿部定夫先生で、先生とリコリス談義をしていると、いたずらしたくなる実験テーマが、次つぎにできて夢がふくらむ。球根を低温貯蔵したら、花芽が死んでしまったとこぼしたとき、分化前に貯蔵したら、というヒントをもらって成功した。二月に掘り上げて貯蔵し、順次出して植

えつけたら、十一月から四月にかけて咲いた。何かの折にそのことを清水基夫先生に話したら、春の花と一緒に写真を撮っておけよといわれた。それがこの写真(上)である。

野生の彼岸花を掘ってみると、ダルマ状にくびれた球や二階球、距離をおいて二段、三段になっている球根がで

てくる。掘っているうちに、この謎を解きたくなった。深さを変えて植えてみると、深植えされた球根は10〜12cmの一定のインターバルをもって、茎の中を通過して養分が移行し、球根が上に移る。これを深さによって一〜三回繰り返しながら、最後になると一番生活しやすい位置(多分そうだと思うのだが)まで動いて、最終的には全部が深さ7cmの所に揃った。30cmもの深さに埋め込まれても、一番生育しやすい位置に移っていく生活力には敬服するが、一体誰がそれを教えるのか、節もないように見える茎の一部が突然ふく

らんで球根になる。しかも、その距離が決まっているのはどういうことなのか、天の神様(光合成、気温、日照)の命令なのか、地の神様(地温、膨圧、水分)の命令なのか、それとも、前年に球根の中にセットされたサーモスタットの働きなのか。この謎はどうしたら解けるだろう。

リコリスとの交際は二〇年にもなるが、中々心の中がわからない。忙しくて二三年ほどいじっていないが、暇を見て、ぼつぼつ交際を深めていこうと思っている。

(通巻第四七号 昭和四八年発行)

プロフィール・ひらき よしあき(執筆当時 園芸文化協会理事)
一九三〇(昭和5)〜二〇一一(平成23)年。東京都生まれ。東京教育大学農学部卒業。千葉県農業試験場花植木研究室長、千葉県花植木センター所長、園芸文化協会理事・副会長等歴任。平成24年度園芸文化賞受賞。

クルメツツジの
野生を求めて

阿部定夫

二十数年も前のことになるが、農林省園試九州支場(現野菜試久留米支場)が開設された当初、テーマの一部に、野生のユリとツツジの研究がとり上げられた。

野生ツツジの方は、九州特産として著名で、自生地も近い雲仙のミヤマキリシマが、まずとり上げられた。ここは他の山より、ミヤマキリシマとヤマツツジの垂直分布の幅が広く、中腹には両者の雑種が多く、花色が多彩で実に美しい。

クルメツツジの起源については、ミヤマキリシマを少なくもその一つと考える説が多かったが、前記のヤマツツジとの雑種は花色の変異は近いが、枝が開帳し葉に毛が多く落葉性がつよく、花が葉と同時に開くなどクルメとの相違点が多かった。各自生地を調べ、霧島山にも雑種系の野生を認めたら、雲仙のものと大同小異であった。さらに南下して、桜島を訪ねた四月下旬のある日、袴腰から上陸して、溶

岩地帯の裾をまく道路を歩いて行くのと、山からおりて来る少年達に出会った。彼等はツツジの枝をかついでいたが、これがクルメツツジそっくりなのが驚いた。よく残存している秋葉は先が円く毛が少なく、やや光沢があり、葉が開かぬうちに花を満開させてお



クルメツツジ
Rhododendron x obtusum var. *sakamotoi*

り、花色も桃、紅を中心に多彩だった。これは溶岩地帯と森林地帯の境目の陽地に生えていた。

その後の調査で、垂水西方の高峠(七二二m)を中心に、大隅半島の三〇〇m以上の台地の陽地に分布することを確かめた。

このツツジは中井博士によりサタツツジ (*Rhododendron sataense*) として記載されているが、種名としてはクルメツツジと同属であるキリシマ (*R. obtusum*) をとるべきであろう。

やや大型のものもあるが、クルメは盆養が多かったもので、なるべく小さいものが選抜されたと考えられる。白花のものも見つけたし、クルメに特有の二重咲きのものも、栽培後に発現した。クルメの一部の小型の品種がミヤマキリシマとつよい関係をもつと考えられる以外、大部分の品種はこの野生種から出たものと確信している。

(通巻第四八号 昭和四九年発行)

プロフィール・あべ さだお(執筆当時 園芸文化協会理事)
一九一五(大正4)年〜二〇〇六(平成18)年。東京都生まれ。東京農業大学農学部卒業。農水省園芸試験場花き育種研究室長等の後、東京農業大学教授。園芸学会学術賞第一号受賞。平成9年度園芸文化特別賞受賞。



春のヒガンバナとウメ

事務局より (協会案内)

公益社団法人 園芸文化協会は 1944(昭和 19)年に、園芸文化の向上を目的に設立された園芸愛好団体です。2021(令和 3)年に創立 77 年を迎えます。園芸文化の普及と発展のためにさまざまな活動を行っています。

主な活動

- ①園芸セミナー(講座、見学会など)の開催
- ②展示会やコンテストの実施
- ③協会報『園芸文化みんなの広場』、協会誌『園芸文化』の編集・発行
- ④功労者表彰(園芸文化賞)、調査研究
- ⑤園芸活動への支援(講師紹介、審査員派遣、寄稿・監修、後援協賛、賞の交付 他)

会員特典

- ①当協会主催の園芸セミナー等に会員価格で参加できます。
- ②各種園芸イベント等の招待券や優待券を進呈します。
- ③協会報や各種園芸イベントの案内など役立つ情報をお届けします。
- ④園芸に関わる方々との交流の場を提供します。
- ⑤賛助企業より特別提供品を進呈します。(入会時、交流会参加時)

入会について

- | | | |
|-----|--------------|----------|
| ・会費 | 正会員(個人) | 5,000円 |
| | 正会員(団体) | 10,000円 |
| | 賛助会員(企業等) 1口 | 20,000円～ |

- ・いつでも、どなたでも入会できます。
- ・会費の有効期限は納入日より3月31日までです。
- ・個人会員に限り、10月1日以降入会の場合、初年度のみ年会費半額(2,500円)となります。

入会方法

- ①郵便振替にて
入会専用の「払込取扱票」にて年会費をお払い込みください。(手数料不要)
- ②入会申込書にて
銀行口座への振込や請求書の発行をご希望の方は、「入会申込書」を事務局あてご送付ください。申込書到着後、入会手続き方法をご案内いたします。

公益社団法人 園芸文化協会 事務局

〒113-0033

東京都文京区本郷 1-20-7 安藤ビル 202 号室

電話：03-5803-6340(平日 10:00～17:00)

FAX：03-5803-6341

メール：enbun@soleil.ocn.ne.jp

*本誌へのご意見・ご感想を事務局までお寄せください。

活動予定変更のお詫びと感謝

当協会は、令和最初の年である昨年、創立 75 年を迎えました。「音楽」や文字違いの「演芸(落語)」とコラボレーションした記念事業や、本誌面 4～7 ページで紹介の「園芸文化を支えた花たち」と題した記念講演を行うなど、会員の皆様のご支援とご協力のおかげで、メモリアルイヤーにふさわしい充実した 1 年を過ごすことができました。

そして「創立 100 周年」への次なる四半世紀最初の年となる今年度も、気持ち新たにいっそう園芸文化の発展に尽くしていこうと、年 17 回のセミナー、「日本フラワー&ガーデンショウ」への参加、「令和 2 年度園芸文化賞表彰式」の開催、そして協会あげて小笠原会長の「第 71 回 NHK 放送文化賞」の受賞を祝う会の開催など々と計画をしていました。しかしながら、突然巻き起こった新型コロナウイルスの世界的大流行により、そのほとんどが中止せざるを得なくなりました。主だった活動ができない状況が続いているにもかかわらず、会費を納めてくださり、寄付までしてくださり、電話やメールで「大変なときだけど

頑張っってね」と温かいお言葉をかけてくださる会員の皆様のご厚意に、どれほど救われていることでしょうか。この場をお借りして感謝申し上げたいと存じます。本日にありがとうございます。

さて、コロナ禍においては、「リモート」や「オンライン」といったインターネットを活用した事業が盛んに行われています。当協会とは縁遠い話とと思っていましたが、そうも言ってはおられず、新たな方向へと舵を切る時がきたようです。どのような形になるかはわかりませんが、計画していたセミナーやイベントはいずれ行う予定です。また、これを機に何か新しいことが始まるかもしれません。楽しみにお待ちしております。

私たち園芸文化協会の創立は、戦争中の 1944(昭和 19)年です。食料も物資も不足する中、植物を愛する心と、植物が与えてくれる力を信じ、敗戦から立ち上がりました。園芸文化協会には逆境に立ち向かう底力があります。皆さんと一緒に、この難局を乗り切っていければと思っています。



リコリス エルジアエ *Licoris x elsiae* アルビフローラ系の大輪品種。9月



アマリリス

Hippeastrum x hybridum

ヒガンバナ科ヒッペアストルム属。中南米～西インド諸島に分布する原種から、多くの園芸品種が作出されている球根植物。ここ三宅花卉園からも、多数の園芸品種が世界に送り出されている。6月

ボマレア エデュリス

Bomarea edulis

アルストロメリア科のつる性球根植物。春からつるを伸ばし、つる先に花をつける。8月



バルビネラ フロリバンダ

Bulbinella floribunda

ツルボラン科。南アフリカ原産の球根植物。50～100cmの高さで、茎頂に花径1cmほどの星型花を密に咲かせる。下から上に咲き上がる。4月

ナーセリーの庭作り

(有)三宅花卉園 取締役会長 三宅 勇

千葉県茂原市の過疎化の進む田園地帯で、庭作りをしています。ここでアマリリスやアルストロメリアの育種を続けながら、切り花素材も得られる“カッティングガーデン”です。美しく咲いた見頃の草花を飾れる楽しみがあります。

ここには洞(うろ)のある古木が数本あるので、洞でフクロウが子育てをしています。去年は2羽巣立ちました。ツバメは一番子、二番子と毎年巣立ち、カワセミなどの多くの野鳥もやってきます。

こうした野鳥をはじめ、多くの生物が心地よく住める環境を整えながら、花鳥風月を楽しめる場所を目指して、この3年余り試行錯誤を重ねているところです。

園芸文化 No.129

2021年1月

編集発行：公益社団法人 園芸文化協会

発行責任者：小笠原 左衛門尉亮軒

編集：(公社)園芸文化協会 会報編集委員会

編集委員(柴田貢 南場浩一 奥峰子)

事務局：〒113-0033

東京都文京区本郷 1-20-7 安藤ビル 202号室

TEL 03 (5803) 6340

FAX 03 (5803) 6341

E-mail: enbun@soleil.ocn.ne.jp

HP: <http://www.engeibunka.or.jp>

*無断転載・複製・複写(コピー)を禁じます